

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 つくし		
○保護者評価実施期間	令和6年10月31日		～ 令和6年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和6年10月31日		～ 令和6年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児の年齢が幅広く、異年齢の交流がある。	・高学年の児童の低学年の児童への自主的な関わりを尊重したり、集団活動の内容やルール決め・進行などを任せ、必要に応じてサポートしている。	・行事の内容などの計画を児童が主役となって実行できるようにサポートする。
2	・同じ法人内に成人施設があり、将来像が描きやすい。	・将来に向けて、制度やグループホーム・日中活動の見学会を行ったり、成人施設の行事や避難訓練に参加している。	・成人施設の保護者や卒業生の保護者と、利用児童の保護者との交流会を実施する。
3	・スタッフが全員同じ就業時間のため、情報共有しやすい。	・毎日の打ち合わせ・振り返りの時間に、全員が参加している。	・打ち合わせ・振り返りの時間以外にも、気付いたことなど、その都度相談する。
4	・降所時、保護者との直接のやりとりができ、児童の細かい情報共有ができる。	・児童のその日の担当者が、できるだけ保護者対応し、様子を伝える。1日利用日は、登所時、その日の担当者が受け入れし、保護者からの申し送りを受ける。	・担当者が確認した情報を速やかに他スタッフに伝える。 ・保護者からの申し送りを支援記録システムにも記録を残す。 ・保護者とより密にコミュニケーションをとることができるようにスキルアップを目指す。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童全員が、避難訓練等、各種訓練を経験することが難しい。	・曜日により、利用児童が変わるため。	・火災や地震等の避難訓練や防犯訓練を複数回実施し、利用児童全員が経験できるようにする。
2	・外遊びの機会が少ない。 ・室内で運動遊びがしづらい。	・すぐに外遊びできる園庭がない。 ・室内に元気に体を動かすことができるスペースがない。	・積極的に地域の公園や公共施設に出向く。 ・児童の特性に合わせた、活動内容と場所を考えて、より広いスペースで活動を行うことができるよう必要に応じて活動場所を分散する。

3	・各マニュアルの保護者への周知ができていない。	・一方的な発信にとどまり、周知されたかどうかの確認までは取れていない。	・年度の初めに改めて文章や口頭で分かりやすくお知らせする。
---	-------------------------	-------------------------------------	-------------------------------

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 つくし

公表日 令和7年1月31日

利用児童数 令和7年1月21日

回収数

20

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	4			体格が大きな児童が多い時、スペースが足りないと感じる。	活動内容と場所を分散する。 年齢層に応じた活動内容を考える。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20					
	8	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20					
	9	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）に沿った支援が行われていると思いますか。	20					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	1	2	12		事業所単位での交流はないが、地域の公園等に向向いて、地域の子どもの交流を図る。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	13	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	20					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17		1	2		実際は開催しているが、行事の名前が少し違つと、家族・きょうだい支援と同じことだと認識されにくい様子。保護者に対して、必要に応じて、丁寧な説明と声かけを行う。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	1		1		利用者全員に周知できるように、年度初めに改めて伝える。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	1		1		自己評価結果を公表したことを保護者に知らせる。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	1		6		マニュアルを作成し、訓練を実施したことを毎月のおたよりで報告する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	1		6		訓練を実施したことを、その日の降所時の申し送り時と毎月のおたよりで報告する。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1		1		計画案を事前に保護者に伝える。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	1		1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	20					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 つくし

公表日 令和7年1月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		3	利用児の人数や特性に配慮した部屋のレイアウトは日々工夫している 運動などの活動や体を動かす遊びの時は狭く感じられる	年齢層に応じた活動内容と活動場所を設けて分散する
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	2	利用定員10名のうち、個別サポートの必要な利用児3~5名/日の現状を考えるとスタッフが少ない 利用日の調整（個別サポート児） 活動の内容に応じて他部署から応援	新規職員入職
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		それぞれの場所にイラストや写真・文字で分かりやすく提示している	安全確保・特性に合わせて安心できる個別のスペース確保 個々のスケジュール提示の仕方をもう少し個別にする
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		建物は古い日々保清に努めている 空気清浄機を設置している	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		子どもの状況に応じてパーテーションで個別の空間を作るなど対応している リラックスして過ごすことが出来るようにクッションやぬいぐるみを置いている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		職員全員が、日々のミーティングや月例会議で、日々の業務等について気付いた点があれば意見を述べている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		スタッフ全員で情報共有している (改善点等話し合う機会を持つ)	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		毎日の打ち合わせ・振り返りのミーティング以外にも、随時支援内容について相談や情報共有を行っている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		今後検討する
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		可能な限り受講し、出席者から研修内容について伝達し、より良い支援に向けて資質向上に努めている	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		3	検討中である	検討・作成中である(2025.1.22作成済)
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	3		支援計画作成会議において、個々の子どもの状況について話し合い、保護者のニーズも汲み取りながら、成長に向けて必要な支援について検討し、支援計画を作成している	
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		必ず全員で支援計画作成会議を行っている 共通理解の下、子どものより良い成長に向けて話し合う機会を持っている	
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		日々の支援において、支援計画の内容に基づき、課題や活動の準備を行い、支援前にミーティング等で情報を共有し、全員で支援を行っている	記録表に、支援計画の内容を記載し、日々意識して支援できるようにする
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		日常場面の行動を観察したり、1対1の個別活動を行う時に行動を観察し、全員で情報共有し、確認するようにしている	
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		ガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の狙い、支援内容を1つ1つ細かく丁寧に確認し、それぞれの子どもの成長に向けて、具体的な支援内容を設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		利用時の年齢、特性、支援計画を考慮した上でスタッフ全員で考えている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		プログラムの内容が偏らないように、色々な意見を出し合い検討している。それぞれの子どもの支援計画があり得意・不得意の分野もそれぞれだが、職員間で幅広い視点を持ち、子どもの成長に繋がる内容を考えるように努	

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	3		それぞれのこどもの状況を検討し、支援計画に個別活動・集団活動両方の活動を組み入れ、個別活動ではそれぞれのこどもに合わせた課題を提供し、集団活動では、友達と一緒に取り組む活動を提供している	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		支援開始前には、必ずミーティングを行っている。前日利用児のそれぞれのこどもの様子を確認して、配慮点等を細かく確認している。その日のそれぞれの職員が個別活動の担当やその他細かく役割分担について話し合い、支援中も情報共有し、連携しながら支援を行っている	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		支援終了後に、振り返りの時間をもち、その日の利用の全員のこどもの様子について話し、情報を共有し、支援のよかった点や改善点についても意見を出している	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		1人1人のこどもの様子（個別課題・遊び・排泄・水分補給・おやつ・食事等）について、記録を取り、ファイルに綴り、パソコンにもデータとして保存しており、次回の利用前の打ち合わせ時や支援計画の作成時に確認し、改善に繋げるよう努めている	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		6ヶ月に1度、スタッフ全員で共通認識の上で行っている	
24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	3		特に地域交流の機会の提供は平日は難しいため、一日利用の日に積極的に取り組んでいる	
25	【放デイのみ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		あらゆる場面で自己選択の機会を逃さないようスタッフが意識を持って支援している	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		児発管参加、参加前、スタッフ全員と情報・状況確認を行ったから参加している	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1	基幹相談支援センター、支援センター、学校など、必要に応じて会議で情報共有し支援を進めている	医療機関との直接の連携はとれていない
28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		3	直接の連携は取れていない 間接的に情報を得ることはある	今後は必要に応じて助言などを求める
29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3		保育所等との事業間の交流は行っていないが、地域の公園や商業施設に積極的に出向いて交流を回っている	
30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		毎回利用日の保護者の迎え時、必ず保護者とコミュニケーションをとり、情報提供・共通理解に努めている	
31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		年に2回の保護者の会を利用して、将来を見据えてのGHや成人施設の見学、また区分認定についての勉強会など実施している	
32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			
33	【児発事業所・児発センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			
34	【児発センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
35	【児発センターのみ】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
36	【児発センターのみ】（自立支援）協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		主に送迎時に行うが、必要に応じて電話やメールでもやりとりし、情報共有に努めている	
38	【放デイのみ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		3	契約前に、保護者・相談員からのみ情報を頂いている	必要に応じて情報共有に努めている
39	【放デイのみ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3		相談員を通じて行っている	

保護者への説明等	40	<u>【放デイのみ】</u> (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3		同事業所の職員が参加し、会議の内容について周知し、情報共有に努めている	可能な限り児発管も参加していく
	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		重要事項説明書に記載し、契約時に説明し、書類も手渡している。玄関先、保護者の目の届きやすいところに掲示している。また、変更があった場合は、文書と口頭で説明している。	
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点や踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		保護者の意向のみ確認している	可能な限り機会を設ける 表出の難しい子どもは現場で確認していく
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3		児童発達支援管理責任者が、直接保護者に支援計画を提示しながら、内容について丁寧に説明し、同意を得ている	
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		必要に応じて個別に面談の機会を設けている	
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3		保護者の会は年2回、兄弟同士の交流はコロナ禍で途絶えていたが、今年度開催	参加しやすい形で早めにお知らせする
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		児童発達支援管理責任者が苦情窓口であることを重要事項説明書にも記載し、契約時に伝え、玄関先にも掲示して周知するようになっている。また、苦情などの申し入れがあった場合は、職員全員で話し合い、解決に向けて対応する体制を整えている。	年度の初めに改めて分かりやすくお知らせする
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		月1回のおたよりと、年4回の事業所全体からの広報誌で発信している	
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報が入ったファイルは、鍵付きの保管庫で管理している。事業所内が留守になる時などは、施錠を徹底している。	
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		相手の特性や状況に合わせて行っている（分かりやすい言葉・文章・ジェスチャー・手話・カード（イラスト・写真））	
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3		事業所全体として、年に1回地域住民に向けたフェスタを近隣商業施設で開催し、毎年多くの地域住民の方々に参加して頂き、交流の機会となっている	
51	<u>【放デイのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		当事業所での解決が難しいと判断した場合他の関係機関に繋ぐ等している		
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		感染症対策マニュアルのみ 事故防止マニュアルのみ	マニュアル作成に取り組み
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	1	事業所全体の業務継続計画（BCP）が策定されており、研修も実施された。洪水・火災の避難訓練は定期的に行われ、子どもも一緒に参加している。	事業所全体での避難訓練はしてきたが、全ての児童を対象としたものは今後実施
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		服薬・てんかん等に関しては、契約時に行うと共に、予防接種は随時保護者より情報提供して頂いている	年度初めに情報提供のお願いをする
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	1	現在該当者なし	食事の提供はないため、医師の指示書に基づく対応には至っていない 保護者の口頭によるお知らせ、検査報告書に基づきおやつは対応
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		計画案作成後、スタッフ全員で周知し、必要に応じて事前の現場下見や練習を行っている	
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	1	安全計画に基づく取り組み内容について、マニュアルを作成していること、送迎車に置き去り防止安全装置を装備していること等、おたより等で伝えている	周知しているが、再度お知らせしていく
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		ヒヤリハットの種類表を作成している。事例発生時には必ず記録を作成し、職員全員で情報共有し、対策について話し合い、改善・再発防止に努めている	
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		事業所内の研修を受け、虐待防止に関わるセルフチェックを行った。職員全員、利用者虐待対応力向上（A研修：基本講義）を受講。また、全員が受講することが出来なかった研修については、受講者が内容を伝達、職員全員が確認できるようにしている。常に職員の意識として、自身の子どもへの関わりが、虐待行為にあたってはどうか考えながら支援に努めている。	
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		子どもの身体的な状況が変化し一時的にでも拘束が必要となった場合、家族に説明し同意書を作成してから実施している	